

学事日程

二〇二二年四月六日 ガイダンス

二〇二二年一〇～十二月 修士論文・卒業論文中間発表会（木曜日三・四限「哲学討論」にて順次開催）

卒業論文

小川さくら「安楽死の法制化について」

川崎 剛「ヴァルター・ベンヤミンの言語哲学——言語から模倣へ、そして創造へ——」

小林みなみ「道徳法則における義務の衝突に関する考察」

鄭 関斤「『ニコマコス倫理学』のアクラシア論——アリストテレスはソクラテス的か、否か——」

スウ・コウキン「ニーチェにおけるニヒリズムとその克服について」

杉山 遥香「言語哲学者たちの空名観とクリプキのキャラクター説」

土田 真希「被服と共にある人間」

成田 咲「バタイユにおける自死の禁止について」

西尾 侑里「アウグステイヌス『告白』における「傲慢」とは何か」

西村 朝陽「記述理論をめぐる——ストロウソンによる批判の検討——」

本間 銀河「共苦はいかにして可能か——シヨーペンハウアーの共苦論と情動の身体性評価——」

森 佑芽「幸福を享受する存在——出生前診断のあり方——」

山田 侑季「プラトン『政治家』における人間の「自由と幸福」

吉田涼太郎「ニーチェ『道徳の系譜学』とSNS時代の道徳についての分析」

修士論文

魚住 広生「デカルトにおける精気の謎——自然学・生理学からの考察——」

岡田 誠二「ソポクレス『アイアス』におけるアイアスの負の側面の描写が持つ最後の場面の準備としての機能」

棚町 太陽「アイスキュロス『アガメムノン』におけるクリュタイメーストラターの人物像の二面性——演説と対話場面で示される

男性のような説得力と女性としての強い情念——」

教員の業績

石川 求

〔研究論文〕「体験と沈黙」、『人文学報』（東京都立大学人文科学研究科）第五一九八号（今号）、二〇二三年三月、一〇三二頁

栗原 裕次

〔研究論文〕「プラトン『政治家』にみる「人の支配」と「法の支配」」、『人文学報』（東京都立大学人文科学研究科）第五一九八号

〔今号〕、二〇二三年三月、三三三〜六四頁

〔学会発表〕“Two Ontological Functions of the Nature of Difference in Plato's *Sophists*” 第一三回国際プラトン学会・シンポジウ

ム（於ジョージア大学（米国・アセンズ））、二〇二二年七月

松阪 陽一

〔研究論文〕「意味と選択」、『哲学論叢』（京都大学哲学論叢刊行会）第四九号、二〇二二年、一二〜二七頁

〔研究論文〕「進化と安定性」、『思想』（岩波書店）二〇二三年一月号（第一一八五号）、八九〜一〇三頁

木田 直人

〔研究論文〕「生まれ変わること」、「ひとおもい 4」(東信堂)、二〇二二年七月、三三〜五九頁

〔編集〕『哲学を創造する ひとおもい 4』(東信堂)、二〇二二年七月

井原健一郎

〔研究論文〕『デカルトの循環(二四)』、『人文学報』(東京都立大学人文科学研究科) 第五一九八号(今号)、二〇二三年三月、六五〜八九頁